

いじめを許すな

上田市立第二中学校 二年 小林 明快

いじめが発生し、自分と同じぐらいの年代の人が自殺するニュースをよく耳にする。何だか感覚がマヒしていて「いじめ」と聞いても「またか」という感じになっている。しかし、冷静になって考えてみると、とても恐ろしく感じる。同じ世代の人の悲鳴が聞こえなくなっている気がする。あらためて僕は、どんないじめでも絶対に許さないという強い意志が必要だと思う。そして、「いじめた側」が100%悪いと思う。

小学校の頃、友達のクラスでも「いじめ」があった。初めは、ふざけてやっていたがヒートアップして行って止められなくなった。その時、それぞれが悪いと思っただけでも、正しい行動を起こせなかった。それは、自分が「いじめ」のターゲットになるのが怖かったからだ。

でも、これではだめだと思う。どんな「いじめ」でも断じて許さないという意志が、一人一人になればならない。それが、すべての大前提だと思う。

「いじめ」をやっている側は、軽い気持ちでやっているかもしれない。しかし、やられている側は、大変なショックを受けると思う。地獄のような苦しみを受ける人もいると思う。目の前のクラスメイトが苦しんでいる心がわからない。それは恐ろしいことだと思う。心がなくなってしまうと思う。だからいじめた側が100%悪いと思う。

いじめの原因をまとめると、いじめる側がいじめられる人の苦しみがわからないことにつきる。そしてそれがわからないから、自分の中の「不安」などをいじめる人にぶつけている状態がいじめとなるのではないかと思う。

では、どうすればいじめがなくなったり、防いだりできるだろうか。自分が考えたことは、「してはいけないことは、どんなことがあっても、してはいけない」とはつきり意識することだと思う。相手が嫌がることはしないという当たり前のことをしていけば、いじめはなくなるのではないかと思う。今思うと、小学校の時にあったような、ちよつとしたふざけも、相手が嫌と思うなら、すぐやめる決断が必要だったと思う。

いじめについて、意見文を書くとき父に相談すると、父は「いじめを見つけて放っておくことは、おぼれている人を見殺しにするようなものだ。」と言っていた。自分のできることは、小さなことかもしれないけど、もし、いじめを見つけたなら、それを放っておくのではなく、自分のできることをやっていきたい。そうすることが自分自身の苦しい経験から一歩前進することだと思う。

最後に、やはり「いじめ」は卑怯な「人権への暴力」であり、絶対に許してはいけないことだ。一人一人が勇気を出して、してはいけないことは、どんなことがあってもしてはいけないと深く意識し、もしいじめがあれば協力して、止めることが大事だと思う。